

アドミッション・ポリシーの役割

大学を志望するのに学力、経済力などもありますが、最初に考えなくてはいけないのは、何学部・何学科に進学するのかを決めることだと思います。さらに、その先に何があるのか。大学院に行くのか、就職するのか。

私は定時制高校生の時に、将来、高校教員になろうと思っていました。それは恩師の教頭先生に世界史を習った関係で世界観・人生観が変わったからです。そのため高校の教員免許状が取得できるⅡ部(夜間)の大学、それも恩師同様に社会科の免許取得できる学部を探した結果、明治学院大学Ⅱ部経済学部経済学科に進学を決めました。他には明治大学、専修大学、神奈川大学などにⅡ部はありましたが、明治学院大学を志望したのは、当時、経済学部で中学校の社会、職業、宗教、高校の社会(現在の地歴・公民)、商業、宗教、外国語(中国語)の免許が取得できたからです。私は明治学院大学で学んだおかげで社会、職業、地歴、公民、商業の教員免許状を所持しています。

現在、各大学はアドミッション・ポリシーを掲げています。例えば、東京大学には学校推薦型選抜のアドミッション・ポリシーがHP上に掲げられています。そのなかに学校推薦型選抜の基本方針が「学校推薦型選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、若しくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、学校推薦型選抜で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。」と示されています。

現在、東京大学では学校推薦型選抜を全学部で実施していますが、例えば、医学科を志望するには単なる医師を目指すのではなく、教育や研究に卓越した能力や強い関心、学ぶ意欲が必須条件としてアドミッション・ポリシーから読み取れます。

中央大学では学部毎にアドミッション・ポリシーを掲げています。その中で理工学部のアドミッション・ポリシーには、入学前に修得しておくことが望まれる学修内容・学力水準等が「・高等学校普通科の課程全般の内容について十分に理解している。特に、数学・理科・英語についての基礎学力を身につけている。(知識・技能)・新しい課題や問題に直面した際に、物事を筋道立てて考えるために必要な、論理的な思考力と分析力を身につけている。また、自分の考えた内

容について他者に理解してもらうために必要な表現力を備えている。(思考力・判断力・表現力)」など、具体的に示されています。

自分の将来、勤めたい企業や仕事、行いたいことなどが見つければ、学部・学科は自然と決まってきます。あとはどこの大学を志望するのかになります。ただし、その学部に進学しても就職実績のない大学もあります。例えば、不動産学部のある大学に進学して大手の不動産会社に勤めることができるかという、そうでもありません。不動産関連会社として有名な三井不動産、三菱地所は、慶応義塾大学や東京大学などから採用していますが、慶応義塾大学や東京大学には不動産学部・学科はありません。

企業に就職するにあたって大学の偏差値にあたるものがあります。それが「就職偏差値」とか「就職難易度」というものです。その中で就職偏差値は、毎年就職偏差値ランキング委員会によって発表されています。

大学の偏差値と異なり、就職偏差値を作成するのが難しいのは、各企業の経済的環境、社会的環境が、年によって異なるからです。また、同じ企業でも文系と理系では就職偏差値は異なります。

例えば、経済的環境、社会的環境の変化では、大手航空業界や大手旅行代理店業界は、コロナ禍で新規採用を中止したり、大幅に採用を控えたりしました。そうすると就職偏差値は急激に下降しました。逆に、新製品開発や新技術導入、ベンチャー企業などは急激に偏差値を上げたり、ランキングに登場したりします。

具体例としては、Nintendo(株式会社 任天堂)です。私が子どもの頃は、トランプや花札を製作販売している会社というイメージでした。しかしながら1980年代の家庭ゲーム機の普及から、1985年にスーパーマリオブラザーズを販売したことからゲーム機、ゲームソフト開発の世界的企業となり、当然、現在は就職偏差値のランキングに登場する企業になりました。

就職偏差値の高い企業は、業界のリーディングカンパニー、国際的商社、政府系機関、大手の銀行や証券会社、エネルギー関係企業、マスコミなどの企業の就職偏差値が高いといわれています。

就職偏差値の高い企業が、自分に合っているのかということ、決してそうではありません。同様に偏差値の高い大学が、自分に合っているのかということ、決してそうでもありません。それより大切なことは大学の先に何が見えているのか。その見えているものの為に大学で何を学ぶのが大切だと思います。まずは、自ら志望する大学のアドミッション・ポリシーを調べて、大学のことを知ってください。大学の個性が分かり、興味ある大学が出てくれば、講義内容・科目や教員まで調べてください。その結果、大学への不本意進学は減ると思います。まずは、各自でアドミッション・ポリシーを調べてください。